

2012年理系第1問

1枚目/2枚

1 次の空欄を適当に補え.

- (1) 方程式 $8 \times 8^x + 7 \times 4^x = 2^x$ の解は $x = \boxed{(a)}$ である. (-3)
- (2) O を原点 $(0, 0, 0)$ とする. ベクトル $\vec{OP} = (p, q, r)$ が, 3点 $A(1, 0, 0)$, $B(0, 2, 0)$, $C(0, 0, 3)$ を通る平面に垂直で, $|\vec{OP}| = 1$, $p > 0$ を満たしているとき, $\vec{OP} = \boxed{(b)}$ である. ($\frac{6}{7}, \frac{3}{7}, \frac{2}{7}$)
- (3) $a_1 = 8$, $a_{n+1} = \frac{5}{4}a_n - 10$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) によって定められる数列 $\{a_n\}$ の一般項は $a_n = \boxed{(c)}$ である. ($40 - 32 \cdot (\frac{5}{4})^{n-1}$)
- (4) 正八面体の各面に 1 から 8 の数字を 1 つずつ書いた八面体サイコロが 2 つある. この 2 つを同時に投げたとき, 少なくとも 1 つは 1 の目が出る確率は $\boxed{(d)}$ である. ($\frac{15}{64}$)
- (5) 関数 $y = \frac{\log x}{x}$ は, $x = \boxed{(e)}$ のとき最大値をとる. (e)
- (6) $a \neq 0$ とする. 方程式 $x^3 - (a+1)x + a = 0$ が 1 以外の解を重解としてもつとき, $a = \boxed{(f)}$ であり, そのときの重解は $x = \boxed{(g)}$ である. ($-\frac{1}{2}$)

(1) $t = 2^x$ とおくと. ($t > 0$)方程式は. $8 \cdot t^3 + 7t^2 - t = 0$ となる.

$$\therefore t(8t-1)(t+1) = 0 \quad t > 0 \text{ より. } t = \frac{1}{8} \quad \therefore \underline{x = -3}$$

(2) $\vec{OP} \perp$ 平面 ABC より. $\vec{OP} \perp \vec{AB}$ か $\vec{OP} \perp \vec{AC}$ すなわち, $\vec{OP} \cdot \vec{AB} = \vec{OP} \cdot \vec{AC} = 0$
 $\therefore \vec{AB} = (-1, 2, 0), \vec{AC} = (-1, 0, 3)$ より

$$\vec{OP} \cdot \vec{AB} = -p + 2q = 0 \dots \textcircled{1} \quad \vec{OP} \cdot \vec{AC} = -p + 3r = 0 \dots \textcircled{2}$$

 $\textcircled{1}, \textcircled{2}$ より. $q = \frac{1}{2}p, r = \frac{1}{3}p$ これらを $p^2 + q^2 + r^2 = 1$ に代入すると, $p > 0$ より

$$\underline{\vec{OP} = (\frac{6}{7}, \frac{3}{7}, \frac{2}{7})}$$

(3) $a_{n+1} - 40 = \frac{5}{4}(a_n - 40)$
 \therefore 数列 $\{a_n - 40\}$ は初項 -32 , 公比 $\frac{5}{4}$ の等比数列

$$\therefore a_n - 40 = -32 \cdot (\frac{5}{4})^{n-1} \quad \therefore \underline{a_n = 40 - 32 \cdot (\frac{5}{4})^{n-1}}$$

(4) 1 の目が 1 つも出ない確率は $(\frac{7}{8})^2 = \frac{49}{64}$

$$\therefore \text{余事象より. } 1 - \frac{49}{64} = \underline{\frac{15}{64}}$$

2枚目につづく

2012年理系第1問

2枚目/2枚



1 次の空欄を適当に補え。

- (1) 方程式 $8 \times 8^x + 7 \times 4^x = 2^x$ の解は $x = \boxed{(a)}$ である。
- (2) O を原点 $(0, 0, 0)$ とする。ベクトル $\vec{OP} = (p, q, r)$ が、3点 $A(1, 0, 0)$, $B(0, 2, 0)$, $C(0, 0, 3)$ を通る平面に垂直で、 $|\vec{OP}| = 1$, $p > 0$ を満たしているとき、 $\vec{OP} = \boxed{(b)}$ である。
- (3) $a_1 = 8$, $a_{n+1} = \frac{5}{4}a_n - 10$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) によって定められる数列 $\{a_n\}$ の一般項は $a_n = \boxed{(c)}$ である。
- (4) 正八面体の各面に1から8の数字を1つずつ書いた八面体サイコロが2つある。この2つを同時に投げたとき、少なくとも1つは1の目が出る確率は $\boxed{(d)}$ である。
- (5) 関数 $y = \frac{\log x}{x}$ は、 $x = \boxed{(e)}$ のとき最大値をとる。
- (6) $a \neq 0$ とする。方程式 $x^3 - (a+1)x + a = 0$ が1以外の解を重解としてもつとき、 $a = \boxed{(f)}$ であり、そのときの重解は $x = \boxed{(g)}$ である。

$$(5) y' = \frac{\frac{1}{x} \cdot x - \log x}{x^2} = \frac{1 - \log x}{x^2}$$

$\therefore y' = 0$ となるのは、 $x = e$ のとき。

x	(0)	...	e	...
y'		+	0	-
y			$\nearrow \frac{1}{e}$	\searrow

\therefore 右の増減表より、最大となるのは、 $x = e$ のとき //

$$(6) \begin{array}{r} x^2 + x - a \\ x-1 \overline{) x^3 - (a+1)x + a} \\ \underline{x^2 - x^2} \\ x^2 - (a+1)x + a \\ \underline{x^2 - x} \\ -ax + a \\ \underline{-ax + a} \\ 0 \end{array}$$

\therefore 方程式は、 $(x-1)(x^2+x-a) = 0$ となる。

1を重解としてもたないことから、 $1+1-a \neq 0 \quad \therefore a \neq 2 \quad \dots \textcircled{1}$

$x^2+x-a=0$ の判別式を Δ とおくと。

$$\Delta = 1+4a = 0 \quad \therefore a = -\frac{1}{4} \quad \text{これは } \textcircled{1} \text{ をみたす}$$

このとき、 $x^2+x+\frac{1}{4} = (x+\frac{1}{2})^2 = 0$ より、 $x = -\frac{1}{2}$ //